

日本銀行
帯広事務所長

田原謙一郎



今年も少年は一人で飛行機に乗ってやってきた。昨年は、とちかち帯広空港まで迎えに行ったものだが、13歳になった次男は、空港から自分でバスに乗り換え、日暮れの帯広駅、バスターミナルに降り立った。仕事帰りの父親を見つげると、手を振りながら「やっぱ涼しいね」。

かちまい 論壇

とちかちステイの効能 パート2

2度目の夏も原則ステイホムだが、十勝ファン歴2年目に入り、滞在中のリクエストはより具体的になった。外遊びでは川下りや垂馬にトライした。温泉は本人ご指名の場所を再訪。お気に入りの理由は「ほったがスベスベになるから」。

もう一つのお楽しみはの食事で「あの店の〇〇」「この店の△△」と十勝のソウルフードやスイーツに舌鼓を打った。

夏休みの宿題は、ゲームやネット動画が楽しくてなかなか進まない。焦ってやり出した社会科の自由課題をのぞき込んだ

「あ〜…(しばしの間)：落ち着く。おいしい空気を吸って、大きな空と大地を目に焼き付けたい少年は、一週間の「とちかちステイ」で身も心も癒やされ、翌日、とちかち帯広空港を後にした。季節や天候に応じてさまざま

ら、タイトルは「日本の食料基地 十勝」。ネット検索を駆使して、十勝では大規模農業が行われているとか、食料自給率は千何パーセントうんぬんと書き写している。

東京の自宅に帰る前日には、もう一度行きたいと言っていた広大な牧場の展望スポットに到着すると大きく深呼吸して

雪山系。雄大な自然をバックにパッチワークのように広がる畑や牧草地。自分がそうだったが、何も知らずに外から十勝に来ると、こんなに広い土地が初めて開けていたのかと、ある意味錯覚したまま、心奪われる。しかし、先人が困難を乗り越えて、少しずつ土地を開いていった。その積み重ねが今日まで続き、

この景観を作っていることを知ると、新たな感動を覚える。さらに、文化・芸術施設では太古からの自然、石器や土器の時代、先住の人々の暮らしや文化等も学ぶことができる。ストーリー性も求められる昨今の旅行需要に照らすと、今につながる十勝の歴史・生活・文化も観光資源の一つなのだと思わなければならない。

長引くコロナの影響は、観光交通、飲食、宿泊ほかさまざまな分野に及んでいる。しかし同時に、十勝の魅力そのものは変わらずここにあり、交流人口、関係人口を増やすための取り組みも進められている。

今後も感染症への備えは怠れないが、ワクチン接種も進んだ。あらためて多くの人が十勝の魅力を感じ、十勝ファンが増えていく好循環を期待したい。